いわて復興だより

がんばろう！岩手　つながろう！岩手

三陸復興

第 118 号

平成 28 年 12 月 1 日号

復興に向けて歩み続ける岩手県の今を紹介します

平成 23 年 3 月 11 日に発生した東日本大震災津波。発災以来、全国そして海外からも多くの温かい励ましや御支援をいただいております。心から感謝申し上げ、この「つながり」を大切にしていきたいと思います。

雨の中に小雪がまじる日も多くなり、いよいよ本格的な冬の訪れを感じる今日この頃。

復興に向けて歩み続ける岩手の今を紹介します。

待望の共同店舗「オール」オープン、町のにぎわい拠点へ　山田町

平成 28 年 11 月 10 日（木）、東日本大震災津波からの復興に向け、被災地の商店街再生を国が支援する「まちなか再生計画」の認定を受け整備が進められている山田町で、共同店舗棟「オール」（山田町川向町）がオープンし、大勢の買い物客で賑わいました。

共同店舗棟は、核となる店舗（スーパー）棟と飲食棟の 2 棟から構成され、スーパーやせんべい店、クリーニング店、飲食店など計 10 店が入居。「本設店舗」での営業がスタートしました。

町は、津波復興拠点事業として JR 陸中山田駅（震災後、休止）を中心とした「中心市街地エリア」約 3.1 ヘクタールを整備。駅前には同施設のほか、町民の交流活動拠点である「山田まちなか交流センター」や小中高生の居場所と図書館の役割を兼ねた「山田町ふれあいセンター・はぴね」が開所しています。

12 月 1 日（木）には、隣接地の災害公営住宅「山田中央団地」（146 戸）の入居が始まるほか、今後、約 40 店舗の再建や金融機関の整備も行われる予定で、にぎわい創出拠点としての役割に大きな期待が寄せられています。

オープンした共同店舗棟「オール」

施設内の飲食店舗棟

オープンを記念し披露された「虎舞」

内陸で沿岸の「旬」を　綾里漁協アンテナショップがオープン　花巻市

平成 28 年 11 月 4 日（金）、東日本大震災津波で被災した大船渡市三陸町の綾里（りょうり）漁業協同組合のアンテナショップ「りょうり丸」が、花巻市西宮野目（花巻観光物産館「金婚亭」敷地内）にグランドオープンしました。

「りょうり丸」は、新鮮な三陸の海の幸を内陸でも味わってもらおうと、地元の漁師や東日本大震災津波後に海底のガレキ撤去を行ったボランティアダイバー、綾里漁業協同組合などが連携し設立されました。

店内には、定置網で水揚げられ直送された旬の鮮魚や“恋し浜”ブランドで知られるホタテ、ワカメ、加工品などを販売する「綾里漁港出張市場」と新鮮な海の幸を提供する食堂「りょうり丸」があり、ランチタイムには「浜焼きセット」が味わえるほか、夜の営業では店の看板メニューである「海鮮丼」や沿岸の地酒などを堪能することもできます。

アンテナショップ「りょうり丸」は、内陸における沿岸海産物の販路拡大に加え、漁業者と内陸とをつなぐ新たな交流拠点として注目を集めています。

綾里漁協アンテナショップ「りょうり丸」

営業時間 ▶
11:30～14:00 ／ 17:00～23:00
定休日 ▶ 月曜日
問い合わせ　☎　0198-29-6381

新鮮な魚介類が販売されている店内

「新しい東北」復興・創生顕彰とは？

「新しい東北」復興・創生　顕彰

復興庁では、震災復興を契機に、我が国や世界のモデルとなる「新しい東北」を創造すべく、民間の人材・ノウハウを活用しながら、様々な取り組みを進めています。
震災復興に貢献されておられる民間の方々を顕彰することで、そうした方々の活動を広く発信するとともに、被災地内外への普及促進を目指します。

【応募締切】12 月 13 日（火）

【対象】民間の方々（NPO、企業、大学、個人等）で、この一年間において、「新しい東北」の実現に向けて活動してこられた方

「新しい東北」官民連携推進協議会の HP　https://newtohoku.secure.force.com/kenshou/

地域防災拠点に「中心市街地拠点施設」工事着工

宮古市

平成 28 年 11 月 4 日（金）、宮古市役所本庁舎などの公共施設を移転集約し、新たに整備する「中心市街地拠点施設」の安全祈願祭が、建設予定地のＪＲ宮古駅南側で行われました。

新しい拠点施設は、現庁舎から内陸へ約 800 メートル西側に位置し、敷地面積約 1 万 5,590 平方メートル。鉄骨 6 階建ての「市本庁舎」と、避難者支援機能をあわせ持つ鉄骨 2 階建ての「市民交流センター（仮称）」、「宮古保健センター」を配置。施設と宮古駅前広場を、鉄道線路をまたいで避難通路（自由通路）で結びます。

山本正徳宮古市長は「環境が変化する中、中心市街地拠点の形成は、スタートライン。これからもしっかりとやっていかなくてはならない。」と話しました。

宮古市役所新庁舎を中心とする拠点施設は、平成 30 年 7 月に完成する予定です。

安全祈願祭の様子

400 年続く伝統の味　被災 6 事業者による「利き鮭」セット発売

大槌町

復興まちづくり大槌株式会社が、大槌町の特産品である新巻きザケを食べ比べできる「利き鮭（ざけ）セット」を企画し、平成 28 年 11 月 10 日（木）から販売が開始されました。

新巻きザケは塩漬けにしたサケを干すという伝統製法で、江戸時代初期に同町で開発され江戸に送られたことが始まりとされます。

「利き鮭セット」は、“新巻きザケ発祥の地”と伝えられる同町自慢の味を全国に届けようと、東日本大震災津波で被災し、本格再建を果たした地元の鮮魚店など 6 事業者が携わり商品化が実現しました。

作り手による異なる 6 種類の味付けや塩加減などを楽しむことができ、通常よりも厚くカットされているのが特長。

同社の岡本崇子さんは「新巻きザケを通して大槌のファンになってほしい。」と話します。

販売が開始された「利き鮭」セット
（写真提供：復興まちづくり大槌）

問い合わせ：復興まちづくり大槌　☎ 0193-55-6650

未来のさんりくびと

被災地・三陸の復興へ向け、多くの若者が情熱を注いでいます。連載「未来のさんりくびと」では、毎号、復興への熱い想いを秘めた若者を紹介していきます。第 64 回目は、中前 いつき さんを紹介します。

岩手県立不来方高校
3 年生
中前 いつき
（ちゅうまえ いつき）さん

中前さんからのひと言：
オリンピックを目指して

<<< PROFILE >>>

大槌町吉里吉里出身。岩手県立不来方高校 3 年生。東日本大震災津波発災時は小学校 6 年生。自宅が被災したこともあり家族で矢巾町に転居。不来方高校進学後はカヌー部に入部。今年開催された「希望郷いわて国体」では、少年女子カヌースプリント・カヤックシングル 500m、200m で優勝。二冠を達成。

大勢の人の応援に感謝

震災後、生まれ育った大槌町に残ることを切望していた中前さんですが、家族の説得もあり、矢巾町に転居し中学校に進学。

「その頃は沿岸と内陸のギャップを感じ、沿岸の人たちは不自由な生活を強いられているのに、自分はこんなに楽をしていいのだろうかと思いました。」と当時を振り返ります。

不来方高校に進学してからは、アットホームな雰囲気に惹かれカヌー部に入部。

二冠に輝いた「いわて国体」での活躍について、「自分が好成績を残したというより、周りの人が喜んでくれるのがとてもうれしい。大勢の人から応援してもらったことを実感しています。」と感謝の気持ちを話します。

多くの人に元気を与えるアスリートに

カヌーに出会ったのは高校に入ってから。先輩からの「できないことはない。できるまでに時間がかかるのは人それぞれだけど、結果的にできるはず。」との言葉を大切に練習に励んできた中前さんは、高校卒業後もカヌー競技を続け、東京オリンピック出場を目標にしています。

今も時々は大槌に帰るという中前さん。「大槌での暮らしが今の自分にとって大事なものになっている。自分より小さい子供たちが思いっきり遊べて成長できる大槌になってほしい。」とふるさとに想いを寄せます。

カヌーを通して、多くの人を元気づける中前さんのこれからの活躍が注目されます。

岩手県の被害状況

平成 28 年 10 月 31 日現在

▶人的被害　死者（直接死）：4,672 人　行方不明者：1,123 人
▶建物被害（住家のみ、全半壊）　26,075 棟

被害状況等の詳細
義援金・寄付金の募集等　いわて防災情報ポータル　検索

皆さんのご支援、ありがとうございます

平成 28 年 10 月 31 日現在

▶義援金受付状況　約 185 億 1,520 万円（93,960 件）
▶寄付金受付状況　約 197 億 9,301 万円（7,902 件）
▶いわての学び希望基金（※）受付状況　約 85 億 9,694 万円（18,444 件）

※ 被災したこどもたちが勉強やスポーツ等に励めるよう「くらし」「まなび」の支援に使われます。

ビジュアル豊富な【いわて復興だより Web】もご覧ください !!　http://iwate-fukkoudayori.com

いわて復興だより 第 118 号 平成 28 年 12 月 1 日号　企画・発行：岩手県復興局復興推進課　☎ 019-629-6945
いわて復興だよりバックナンバーは　いわて復興だより　検索　編集・印刷：シナプス

【次回のいわて復興だよりについて】次回は 12 月 15 日号の発行を予定しています。